

会 議 録

平成21年8月30日調製

審議会等名	平成21年度 第1回 生涯学習推進会議		
公開の別	全部公開		
開催日時	平成21年6月26日(金)午後2時00分～4時00分		
開催場所	三条市役所三条庁舎 大会議室(南側)	傍聴者	なし
		報道機関	なし
出席者氏名	生涯学習推進会議委員 丸山正夫委員 小林邦雄委員		
	佐藤幸治委員 橋爪 成委員		
	田中正男委員 長野理智子委員		
	堀 善一委員 高橋美智子委員		
	三条市	宗村市民部長	金子生涯学習課長
	近藤生涯学習課課長補佐 小林生涯学習係長		
	山田主事 武藤主事		
	(欠席者)	岡田竜一委員	森 久委員
議 題	(1) 生涯学習推進計画について		
	(2) 生涯学習手帳の作成について		
	(3) 平成21年度 生涯学習推進計画 実施計画・実施状況について		
発言内容等			
金子課長	<p>会議に入る前に、欠席者の連絡をさせていただきたい。本日、岡田委員、森委員より欠席の連絡が入っている。なお生涯学習推進会議委員は、今年度5月1日より新たに委嘱させていただいた。委嘱状を机上に配布しているのでご確認をお願いしたい。</p> <p>(定刻になったので)これより平成21年度第1回生涯学習推進会議を開催する。会長・副会長を選出いただくまで、次第に沿い、事務局で進行する。開会にあたり、市民部長より挨拶をいただきたい。</p>		
市民部長	(市民部長あいさつ)		
金子課長	議題に入る前に、会長、副会長の選出を行いたい。		
	委員の中から1名ずつ推薦をお願いしたい。		
丸山委員	<p>田中委員はどうか。(一同、拍手)</p> <p>(田中会長の指名により丸山委員が副会長に決定)</p>		
金子課長	<p>それでは田中委員に会長を、丸山委員に副会長をそれぞれお願いしたい。これより議事について、田中会長より進行していただきたい。</p>		

田中会長	では、次第に従って議題を進める。生涯学習推進計画について、事務局から説明をお願いしたい。
小林係長	<p>手元の冊子「生涯学習推進計画」とパンフレットをご覧いただきたい。冊子は事前にお届けしているが本日お手元に無い方がいたら事務局へ連絡を願いたい。</p> <p>平成17年度に新三条市となり、平成18年度には三条市教育基本方針ができた。三条市教育基本方針と三条市総合計画との整合性を図った上で、ワーキングチーム会議での検討などを経て、平成19年3月に生涯学習推進計画を策定した。</p> <p>併せて、議題3に関係する平成21年度 生涯学習推進計画 実施計画・実施状況の説明をさせてもらう。これは生涯学習推進計画の体系に基づいて、各課で取り組んでいる生涯学習と思われる事業を分類して一覧としたものである。</p> <p>今年度の生涯学習推進会議では、昨年度検討してきた事業の連携、事業の取捨選択、新規事業・生涯学習手帳事業などの議題を中心に、生涯学習推進計画の体系に基づき、生涯学習推進について検討していきたい。</p>
田中会長	<p>今ほどの説明について意見等があればあげていただきたい。今回は委員10人のうち5人が新人なので、どんな視点でも良いので疑問をあげてほしい。特になければ、続いて議題2の「生涯学習手帳の作成」について事務局の説明を求める。</p>
小林係長	<p>昨年来、推進会議の中では、生涯学習の推進を行っていくためにどのような方法が効果的か検討してきた。そして、事業参加時間に応じて手帳に押印を受けることで、事業参加の張り合いにできるような仕組みがあると良いという意見をいただき、三条版の生涯学習手帳として具現化していこうと考えている。</p> <p>生涯学習手帳の趣旨は、生涯学習手帳を作成し、生涯学習に関する事業の参加者に対し単位を認定することで市民の生涯学習に対する意欲・関心を高めることである。手帳は手帳交付を希望する方に配布し、生涯学習推進計画実施計画に登載・認定されている事業への参加時間数に応じてスタンプの押印を受けることができる。手帳のスタンプ数に応じて、50単位でひまわり賞、150単位で花菖蒲賞、250単位で五葉松賞、500単位でヒメサユリ賞というように、申請に基づき、一定の単位を取得した方を褒賞する。</p>
丸山副会長	手帳について提案等があれば聞かせてほしい。手帳のひな型などはないか。
小林係長	新潟県のを参考にしている。回覧するので見ていただきたい。
丸山副会長	受講歴の記入ができ、自己管理ができるような記入欄があると良い。

小林係長	学習の記録を記入できる項目を設けるので、そこに記入してもらえよう したい。原稿が刷り上がったなら委員の方に見ていただきたいと考えている。
堀委員	手帳の利用人数は何人程度見込んでいるか。発行が500冊とあるが、足り ないのではないか。また、ひまわり賞などの褒賞があるが、褒賞の目安を教 えていただきたい。また、褒賞の受付はどのようにしていくのか。そして、 単位の認定は褒賞を受けた後も積み上げていくのか、一つ賞を受けた時点で 最初からやり直すのか、教えてほしい。
小林係長	手帳の希望数が増えた場合は、増刷することで対応したい。褒賞の目安につ いては、より上位の賞になるにつれて賞状のサイズを大きくしていくことを 考えている。単位の積み上げについては、一定単位に達した後も積み上げて いくことを考えている。 褒賞の受付については、まだ詰めていなかったが、随時受付することを考え ているが、事務量等を考慮し、一定の受付期間を設けることも検討している、 今後事務局で内容を詰めていきたい。
長野委員	手帳の利用者には幼児や小中学生も入ると思うが、子ども向けの手帳はない のか。(この手帳では)子どもには分かりにくいのではないか。
金子課長	基本的には県のいきいき県民カレッジにならっているため、子ども向けとし てもこの手帳でカバーできるのではないかと考えている。ユニバーサルデザ インには配慮しなければならないと考える。
小林委員	スタンプを押印する部分に受講歴等がかかるメモ欄をつくってほしい。
丸山副会長	私も同じイメージだが、スタンプを押して、その脇に記入できる欄があると 良い。
橋爪委員	学習には、色々なものがあるが、どんなものが手帳の対象になるのか見えて きにくい。
小林係長	議題3 生涯学習推進計画実施計画・実施状況について説明する。量が多い ため、主要な事業を説明する。柱1 家庭教育の充実については、事業数が 減っている。ここでは、別紙を参考にして説明する。三条市では、これまで 子育てに関する講座を各公民館で個別に行ってきたが、参加者が限定される など効果的ではなかった。組織機構の見直しを踏まえて、家庭教育に関する 事業を子育て支援課で統一し、成長過程に応じて事業を展開していく考えで 事業を進めていくこととした。この資料の中で、子育てに関する事業数が減 っていることは、主催する課を統一したためであり、実際の開催数は各公民 館や保育所等で個々に行っているため増えていることが考えられる。続け て、学力向上プロジェクト関係について説明する。昨年度までは学校教育課 で行っていたが、今年度は小中一貫推進室と連携して行うこととしている。

小林係長	<p>続いて、社会教育の充実について説明する。この部分については、公民館で行う事業が中心となっている。新規事業として「市民総合大学」がある。行政は会場等を手配し、市民の方々から講師や事業企画をしていただいて講座を行うという、先進的な企画である。広報で周知した結果、非核平和やゆかた着付け等の充実した講座がそろっている。今後も、市民の皆様の学習成果を還元できるような仕組みを、生涯学習課でも作っていかねばならないと考えている。</p>
田中会長	説明があった生涯学習の各事業と、手帳との関係はどうか。
橋爪委員	この手帳は、誰でも受けられるのか。
小林係長	希望があれば、誰でも受けられる。事業の受講をしなければ手帳がもらえないということはない。
橋爪委員	これまでにいきいき県民カレッジで賞をとったが、嵐南公民館で交付を受けた。三条の手帳は市役所まで行かないと賞は受けられないのか。
金子課長	それは県の手帳であり、今回は県のを参考にして三条市版の手帳を作ったので、賞の交付も柔軟に対応したい。
小林係長	<p>引き続き、今年度の事業計画から、目立つものを説明していく。生涯学習手帳作成事業は、先ほどからの説明のとおり、生涯学習事業の推進として実施していきたい。地域コーディネーター養成講座については、新潟県との連携事業としてすすめていく。認知症サポーター養成講座は、公民館で開催するが、高齢介護課と連携して行っていくものである。</p> <p>ここまで事業を大まかに説明をしたが、この冊子の中で認定事業としているものが生涯学習手帳の対象となるもので、事業に参加していなくても、手帳は希望があれば配布するということにしたい。</p>
金子課長	これまでの中で、黒い星印がついているものが手帳の認定事業となる。認定事業は公民館の自主申請に応じて、決定してきたため、もう一度事務局で見直しをしたい。
田中会長	市民にはどのような形で認定事業を知らせるのか。
小林係長	認定事業は一覧にして冊子を作ってPRしていきたい。来年度はカラーで発行できるようにしたい。認定事業に関するブレを再整理して、冊子として手帳と一緒に配布できるように進めたい。
近藤補佐	認定事業だということを、各事業のチラシ等でPRしていくよう、各課等に周知していきたい。
田中会長	新潟県社会教育協会では、読み聞かせ講座を開催した。受講生は当初いきいき県民カレッジについて知らないが、主催者がオリエンテーションの時に手

	帳を紹介することで、ほとんどの受講生が手帳をもつことになる。このような形で市民へ周知していくのも良いと思う。事業は、やってみて、やり直していくのが一番良いのではないだろうか。
長野委員	最初の手帳はどこでもらえるのか。
小林係長	生涯学習課と、公民館を考えている。8月か9月に配布できるようにしたい。
田中会長	今日まだ意見をいただいている委員の方から意見をいただきたい。
佐藤委員	今日説明があったように、市が行う各事業の件数を数値化して、生涯学習が活性化したという数値化は非常に良いと思うが、例えば自主的に公民館を借りたりとか、学校を借りるというようなことにも着目して、大きな目線で生涯学習を進めていただきたい。
田中会長	全体を通して意見をお願いしたいが。
堀委員	今、一連の事業の説明があったが、各事業が個別にどうなっているのかというところが見えてこない。私がかかわる事業の中で、大変評判が良くいつも定員を過ぎる事業があるが、毎年希望者のうち半数以上の人を受講できていないので、細かいことだが考慮してほしい。
小林委員	長年同じ人が何年も受講している講座があるので、サークル化していくような指導はできないのか。
宗村部長	昔から公民館では、このようなことが見られた。同じ人ばかりが受講するのは好ましくないため、公民館運営審議会へ長期講座のあり方について諮問をした。平成21年度からは、3年から最大5年の範囲で学んでもらうように公民館側では決めさせてもらった。公民館以外の他課の部分はまだ調整はとっていない。
丸山副会長	生涯学習課が組織変更で教育委員会を離れ、心配な面もあったが、他の課との連携がうまくいっているという話を聞き、市長部局に来たほうが市の組織との連携がしやすくなり、良かったと思っている。他に意見等がなければ閉会としたいが。
田中会長	生涯学習手帳は、三条市では初めてのものであり、ぜひ成功させたい。今日の会議での意見を集約し、完成させてほしい。

15:30閉会